

1 学校理念

八戸盲学校は視覚障害を有する児童生徒の、八戸聾学校は聴覚障害を有する幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育を営むとともに特別支援教育のセンター的機能を発揮し地域に貢献することを目的とする。

2 校訓及び学校教育目標

盲学校

校訓

健康 自学 協調 実践

学校教育目標

心豊かに、たくましく生きぬく人間を育成する。

進んで体を鍛える子

進んで学習に取り組む子

仲良く助け合う子

根気強く実践する子

聾学校

校訓

自主 親和 健康

学校教育目標

個々の障害の状況と心身の発達に応じた教育活動を通して、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るとともに、人間性豊かにたくましく生きる幼児児童生徒を育てる。

意欲的で主体性のある子

豊かな情操を持ち、協調性のある子

健康で、たくましく生きる子

豊かにコミュニケーションできる子

3 基本方針

青森県教育委員会学校教育指導の方針と重点をふまえ、盲学校聾学校それぞれの学校教育目標の達成のため、目指す学校像を明確にし、全教職員の協力による学校づくりを進める。一人一人の教育的ニーズに応じた教育を営むことのできる学校づくりのため、本人・保護者の主観的ニーズや客観的ニーズから合意形成を図った上で教育活動を進める。また、保護者及び地域の要請に応え貢献する学校づくりのため、**盲学校聾学校で一体感をもってその実現を図る**とともに地域との連携・協働をすすめる教育活動を充実させる。

4 目指す学校像

「わくわくする学校」

5 重点と方策

学校経営の重点及び項目を以下の通りとし、目標達成を3年後(令和7年度)とし、1年目を「3年次計画の立案、目標設定、具体的方策の検討作成、1年目の評価と改善」2年目(本年度)を「2年目の目標と実施、中間達成度の検討と評価と改善」3年目を「最終目標に向けての実施、評価と総括、次の目標の設定」として学部、分掌で目標を作成する。

6 学校経営の重点及び項目（3年計画の2年次）

ア：健康で安全な学校生活

- A) 運動の習慣化と体力の増進
- B) 健康に関する知識と技能の定着
- C) 食育の充実
- D) 危険を予測、回避する能力の育成

イ：授業の充実

- A) 基礎的・基本的な学習を定着させるための授業
- B) 探求的な学びができる授業
- C) 興味関心を広げる学習

ウ：豊かな心とコミュニケーション

- A) 道徳教育の充実
- B) 自己有用感、自己肯定感を高める学習活動
- C) 互いの良さを認め合える活動
- D) 自分を表現できる力の育成

エ：貢献する学校

- A) 保護者と連携した教育活動
- B) 学校運営協議会の設置と学校運営への参画
- C) 地域資源を生かした学校行事や校外活動
- D) 障害理解のためのゲストティーチャー派遣、教育相談など地域への支援活動

オ：時代のニーズに応じた教育

- A) キャリア教育の充実
- B) 情報化に対応する教育の推進
- C) 国際化に対応する教育の推進

カ：働き方改革

- A) 業務の仕分けと整理整頓
- B) 分掌、会議、書類のシェア
- C) 働きがい
- D) 年休の計画的消化

キ：学校組織

- A) 組織としての実行力（成果責任と業務遂行責任）
- B) 学校組織としての在り方
- C) 服務規律の遵守

7 学校運営協議会との関係

令和3年度から学校運営協議会が導入され、年3回開催している。

学校経営方針の承認や学校への提言など、学校と教育ビジョンを共有している。

令和5年度2月の学校運営協議会では、非常勤寄宿舍指導員の勤務時間について提言書を教育長あてに提出した。

令和5年度において、教育ビジョンを共有するための教職員との熟議を実施、その中で話し合われた「地域の祭り、文化を学ぶ」をキーワードに、令和6年度は地域を学ぶためのサマースクール「アイラブはちのへ」を実施し、「地域とともに発展する学校」とともに「特色ある学校」を目指す。

別添

(1) 令和5年度の学校評価から

ア 健康で安全な学校生活

具体的方策	結果	現状と改善並びに方策
外部専門家の活用	スケート教室、スキー教室、 体操教室におけるプロ選手、 インストラクターの活用	
部活動の設定		外部講師、経験者による 指導
ほけんだより、健康 の記録を活用した健 康教育	成長曲線で可視化しやすい健 康の記録 家庭によって健康への関心、 意識の違いがある	自分で健康に気付く教育
新しい生活様式と生 活習慣の振り返り	早寝早起き手洗いなど健康生 活の基本の意識の低下 換気、湿度、照度教室環境へ の配慮の向上	自分で健康に気付く教育
食育だよりなど食を 通した健康教育	減塩の励行、調味料はかける からつける、麺類の汁は控え るなど具体的な指導	
給食レシピコンクー ル参加等による食へ の興味関心、意識 の向上	聾学校6年生参加 参加者の減少	夏休みの課題として家庭で 食を考える機会とする。 栄養教諭と家庭科教諭の協 力体制
献立の工夫や給食に 関わる掲示教育	季節、旬の食材を使った献立 と食材の掲示	
避難訓練、安全教室 など災害、事故に対 応した訓練	火災、地震、津波、水害、J アラート、不審者対応、A E Dなど、さまざまな訓練の実 施	
ヒヤリハットの周知 及び傾向と対策	小さなけが、事故を見逃さな いで、家庭に連絡報告をす る。	

イ 授業の充実

具体的方策	結果	現状と改善並びに方策
個別最適な学習と協働的な学習の一体化	タブレット、プリント、好みの教材を選んで授業を受ける。 一緒に話を聞き、それぞれで考え発表し、考えを深める授業を行った。	I C Tや機器を使うことが目的ではなく、何を学ぶか、どう学ぶかを正しく押さえる授業計画の作成。
体験的な学習による主体的で対話的な深い学びのある学習	工場、交番、消防署、図書館、博物館、福祉体験などさまざまな体験活動を設定した。	どう体験するか、体験をどう学びに結び付けるか。意図的に設定された体験を元に主体的な学びへの移行。
I C Tを活用した学習 遠隔合同授業	個々に適した分かりやすい教材をネットから選び活用した授業。 テレビ会議システムの活用で、青森、筑波、沖縄、四国、大阪などの学校とつながり、多様な意見に触れることができ、少人数化への対応策となっただけではなく、全国にいる仲間の存在を感じることができた。	授業によって得られる効果と準備時間の妥当性。 I C T活用技術の差と指導方法の差の相関関係。

ウ 豊かな心とコミュニケーション

具体的方策	結果	現状と改善並びに方策
ハートフルリーダーを中心とした道徳教育と指導	自分や友達の長所に気付く場面を活動の中に意図的に取り入れることで自己肯定感や優しさ、思いやりにつながった。	計画的ではある。加えて系統性であるか。活動を振り返って、行動での評価であり、点数化できるものではなく、成長に応じて変化していくものである。
さまざまな場面での子どもの関わりを見守り導く大人集団	ボランティア希望者からの連絡があった。	部活動の指導、読み聞かせ、草刈りなどの環境整備等でお手伝いを募集。教員の多忙化解消につながる取組。
各種コンクール、コンテスト等への参加	書道、写真、詩、絵画コンクールに出品し、入賞した。	

地域活動、ボランティア活動への参加	ごみ拾い活動 公民館祭りへの参加	本校児童生徒が地域に貢献する取組。
体験活動の充実	教科学習に関わる体験活動は充実してきている。	芸術についての体験活動が少ない。
ビブリオバトル、読み聞かせ、短歌、俳句、絵画、書道など表現力を向上させる学習	各種コンクールでの入賞は、自己肯定感の向上につながった。	送料、出品料などがかかる。専門家の指導を受けることで技術の向上につながる。美術科教員の配置がない。

エ 貢献する学校

具体的方策	結果	現状と改善並びに方策
家庭と連携した学習	宿題、音読の確認 言葉を増やす取組への協力 手伝いの励行	予習、復習など教科学習を家庭で行うことへの協力は必要不可欠。何をどのくらい、ねらいについて家庭と共通理解しているか。 家庭の力を借りて、理想的な生活習慣をつける。
コーディネーター的役割と地域資源と人材の活用	教頭を中心に学部分掌の主任が役割を担っている。 学校運営協議会委員からの情報提供。	学校のニーズ、地域の資源のマッチング 年間の学習指導に地域の人材を活用するアイディア
地域のニーズと支援	八戸市1歳6ヶ月健診の協力 特別な支援を必要とする人たちへの相談窓口とサテライト教室の実施	特別支援教育の専門性の向上と維持

オ 時代のニーズに応じた学校教育

具体的方策	結果	現状と改善並びに方策
地域のスペシャリストの活用	体育、図工、音楽、キャリア教育（職業体験）、クラブ活動などで活用した。教員とは違ったアプローチ、高い専門性により体験や学びの深まりを得た。	
消費者庁、選挙管理委員会等の派遣事業、企業による派遣事業の活用	企業が作成した教材等を活用した授業を行った。	税金、カードといった社会環境の変化に合わせた消費者教育が不足している。 SDGsに関わる環境教育

カ 働き方改革

具体的方策	結果	現状と改善並びに方策
業務内容の仕分け 机上、書架の整理と 効率化	継続	
誰でも閲覧しやすい 文書の整理と収納	継続	
両校の同じ校務分掌 担当者で文書を共有 する	継続	主任を中心とした情報交換 文書のべ切をスケジュールリ ングして、共有する。
研究研修などによる スキルアップをはか る。視覚、聴覚に関 する免許状を取得す る	視覚障害、聴覚障害の教員免許 の取得 所持率 盲学校 37%→45% 聾学校 42%→58% に向 上	取得計画の4月提出と所持 率目標60%
年間を見通した年休 取得でリフレッシュ をはかる	年休取得16日以上、夏季休暇 4日取得 勤務時間外勤務全教職員平均 24.2時間。具体的に月20日 として、朝10分、夕1時間で このくらいの時間になる。	リフレッシュのための年休 取得への相互理解。 メリハリのある働き方を心 掛ける。

キ 学校組織

具体的方策	結果	現状と改善並びに方策
指導及び業務につい て、目標や意図をも ち成果や結果を説明 できる	指導と結果を適切に伝え保護者 の信頼を得られている。	教職員、保護者、子どもが 意見を伝えあい、それぞ れの役目を果たすために正し く説明する。
必要な情報を共有 し、チームの一員と して業務を遂行する	アンケート項目「教職員間での 連帯感があり、相互に支え合 い、働きがいのある職場にす ることができた。」 盲学校：3.23 聾学校：3.76 ストレスチェックでは同僚支援 が得られ、働きがいのある職 場との結果が出ている。	業務の内容と個人のライフ ステージとのバランスはと れているか。 依頼の仕方、業務内容の精 選はできているか。
幼児児童生徒の模範 となり、信頼される 行動をする	交通違反、体罰、セクハラ、パ ワハラはなし。	子どもから信頼される大 人、教職員であるか。

(2) 校長としての目標

- ・学校としての責務を果たす
- ・新しい時代の教育を進める
- ・教職員のウェルビーイングを進める

	年次目標	改善並びに方策
1 年次 R 5 年度	・授業の充実と学びの質の向上 ・豊かな経験 ・計画的な休暇取得	体験活動の不足。学習や生活に生かせる体験をさせる。 勤務はメリハリ、休みは計画的にする。
2 年次 R 6 年度	・授業の充実 ・地域を生かした体験活動 ・満足感、達成感のある生活（メリハリのある働き方）	もうろうサマースクール「アイラブ八戸（仮）」 縦割りグループでの八戸発見プチ旅行
3 年次 R 7 年度	・特色ある学校 ・次ステージへの展望	「アイラブ八戸」から発展する八戸盲聾学校ならではの学習活動
最終目標	・学校としての責務を果たす ・新しい時代の教育を進める ・教職員のウェルビーイングを進める	